

買掛金の支払いのために 約束手形を振り出した場合は？



慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。

新人さん：月末のA社への買掛金の支払いは、普通預金から振り込めばいいですか？

先輩：いや、来月末が支払期日の約束手形を振り出しておいてくれ。

新人さん：約束手形ですか？

先輩：ああ、約束手形を振り出すことで支払いを先に延ばせば、資金繰りが楽になるだろう。

新人さん：支払いの先延しなんてできるんですか？

●解説

「支払手形」とは、通常の営業取引で発生した債務の支払いのために振り出した約束手形や、引き受けた為替手形を処理する勘定科目です。手形には、代金を支払う人と手形を振り出す人が同じ約束手形と、支払う人と手形を振り出す人が異なる為替手形があります。会計上はどちらも「支払手形」として処理します。

通常の営業取引以外の取引によって発生した手形は、「支払手形」とは区別して処理します。たとえば、設備等の購入代金の支払いのために手形を振り出した場合は、「設備支払手形」や「営業外支払手形」等の勘定科目で処理します。また、借入金の担保として手形を振り出した場合は、「支払手形」ではなく「短期借入金」として処理します。

手形の支払期日が到来すると、所定の当座預金口座から支払いが行なわれますので、手形の支払期日に「支払手形」の減少の処理をします。

手形の支払期日に当座預金口座の残高が不足していた場合、不渡りになります。1回目の不渡りから6か月以内に2回目の不渡りを出すと、銀行取引停止となり当座預金取引と融資取引が2年間停止となります。この場合、事実上の倒産となるため、手形の利用の際は十分注意する必要があります。

ケース1 約束手形を振り出した場合

仕入先A社に対する買掛金100万円を支払うために、約束手形を振り出した。

【借方】 買掛金 1,000,000 / 【貸方】 支払手形 1,000,000

ケース2 手形が決済された場合

仕入先A社に振り出した上記の約束手形が、当座預金口座から引き落とされた。

【借方】 支払手形 1,000,000 / 【貸方】 当座預金 1,000,000

ケース3 機械を購入した場合

機械100万円（税別）を購入し、代金として約束手形を振り出した。

【借方】 機械装置 1,000,000 / 【貸方】 設備支払手形 1,100,000
仮払消費税等 100,000